

2. 三極コア出願の日米欧比較

(1) 三極コア出願の定義

経済活動のグローバル化の進展により、重要な発明は国内だけではなく、外国にも出願される。外国出願の基となった国内出願を計る指標は様々あるが、ここでは、世界市場の大部分を占め、かつ特許出願数の多い日米欧の三極について、

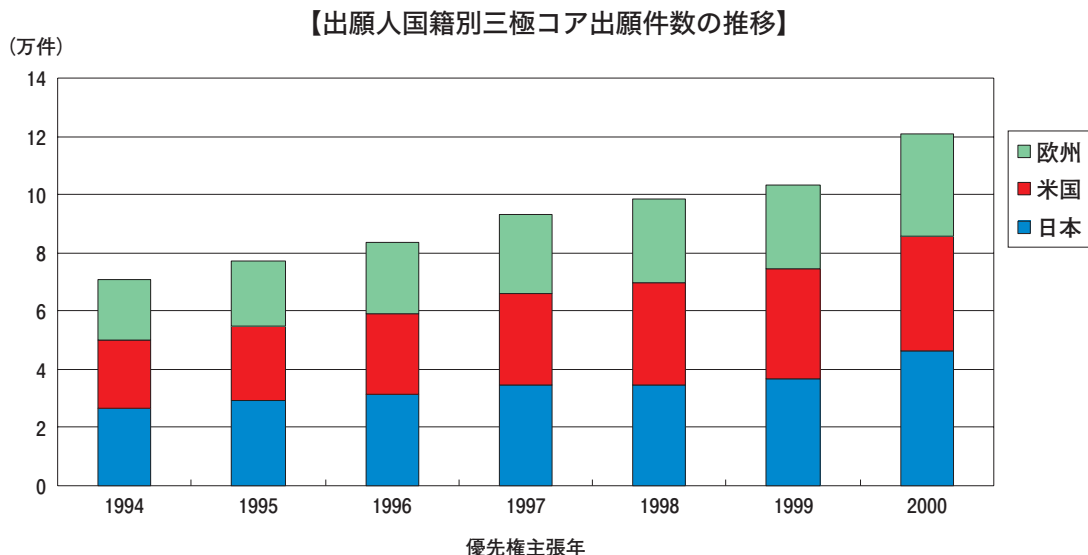
ア) 日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にして特許協力条約に基づく国際特許出願がなされたもの (PCTルート出願)

イ) 日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にしてPCTルート以外で他の二極のいずれかへ出願がなされたもの (パリルート出願)

の双方を「三極コア出願」と定義し、その構造や動向の分析¹を行った。

(2) 三極コア出願件数の推移

重要出願として位置づけられる三極コア出願は増加傾向の一途を辿っている。優先権主張年が2000年の出願については、日本国籍と欧州国籍²のものが対前年比で20%前後の伸びを見せており、一層の増加の兆しを見せている³。



¹ 分析の条件は以下のとおり。

調査対象国：日本 (JP)、米国 (US)、欧州、国際出願 (WO)

なお、欧州は、ベルギー (BE)、スイス (CH)、ドイツ (DE)、フランス (FR)、イギリス (GB)、オランダ (NL)、スウェーデン (SE) 及びEPC出願 (EP) を指す。

調査対象期間：優先権主張年が1994年～2000年の出願で、2003年6月25日までにダウエント社が収録した特許出願データを対象とした。

調査使用データベース：ダウエントデータベースWPI(日本、欧州については公開されたものを集計している。米国については、出願早期公開制度が施行される2000年11月29日より前の出願は、登録されたもののみを集計しているため、未審査または拒絶された出願はデータに含まれていない。)

解析内容：日米欧いずれかの国になされた特許出願であって、その出願を優先権の基礎にして特許協力条約に基づく国際特許出願がなされたもの、あるいは他の二極のいずれかへ出願されたものを国別、技術分野別に算出。

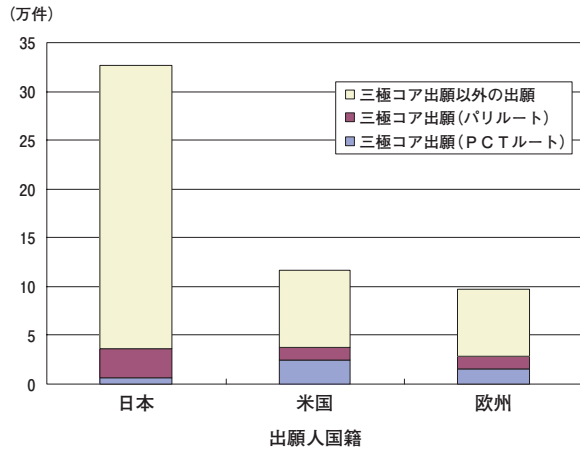
² 最先の優先権主張国を出願人の国籍として集計している。

³ 米国籍の出願についても、未審査分の出願のデータ反映状況によって、増加率が変動する可能性がある。

優先権主張年が1999年の出願について出願人国籍別に三極コア出願率¹をみると、日本の出願については1割強であるのに対し、米国及び欧州の三極コア出願率は3割程度である。米国及び欧州は日本に比べ、他の2地域に対し積極的に外国出願をしていることがわかる。

また、ルート別にみると、三極コア出願に占めるPCTルート出願の割合（PCTルートの利用率）は、米国及び欧州の出願では5割を超えているのに対して、日本の出願では2割に満たず、日本ではパリルートによる外国出願の方がより一般的であることがわかる。

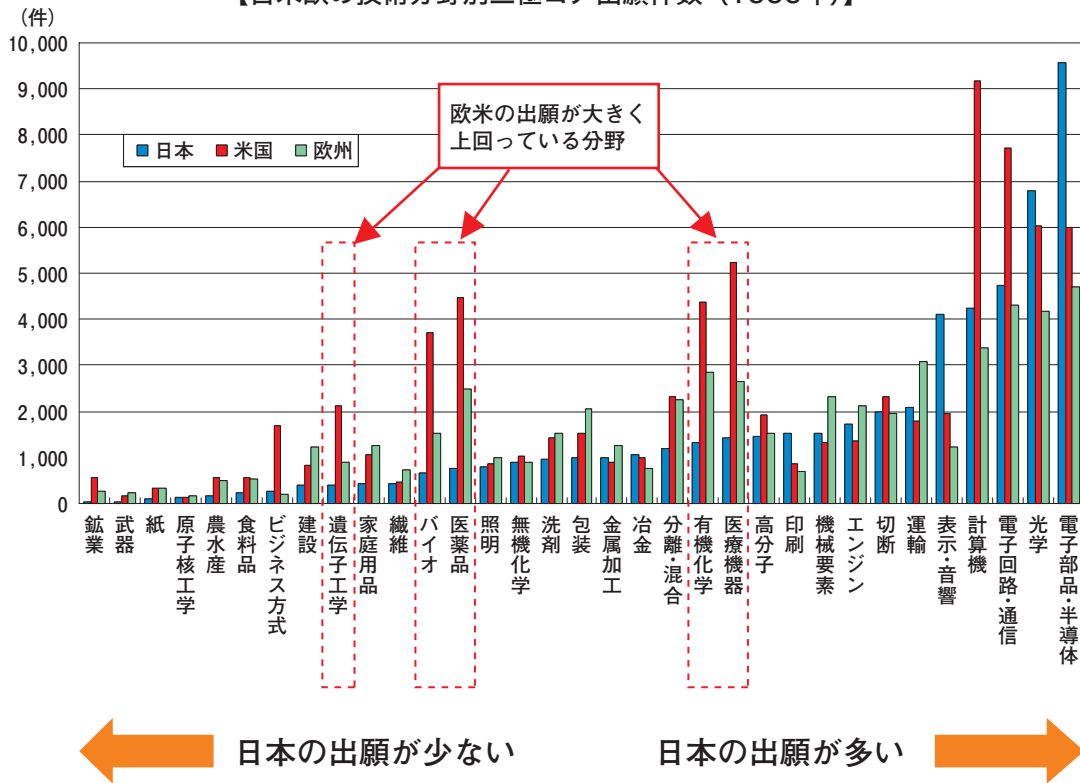
【ルート別三極コア出願件数（1999年）】



(3) 技術分野別三極コア出願の日米欧比較

1999年（優先権主張年）における技術分野別の三極コア出願件数を出願人国籍別に見ると、「電子部品、半導体」、「光学」、「表示、音響」の分野では日本が多く、「遺伝子工学」、「医薬品」、「バイオ」等のライフサイエンス関連分野では、欧米が日本を大きく上回るという傾向は変わっていない。

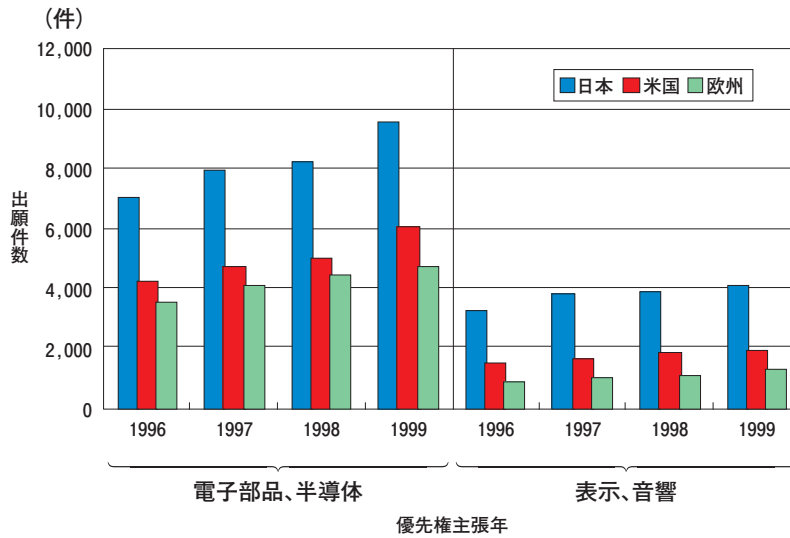
【日米欧の技術分野別三極コア出願件数（1999年）】



¹ 出願人国籍別に計算した三極コア出願の占める割合

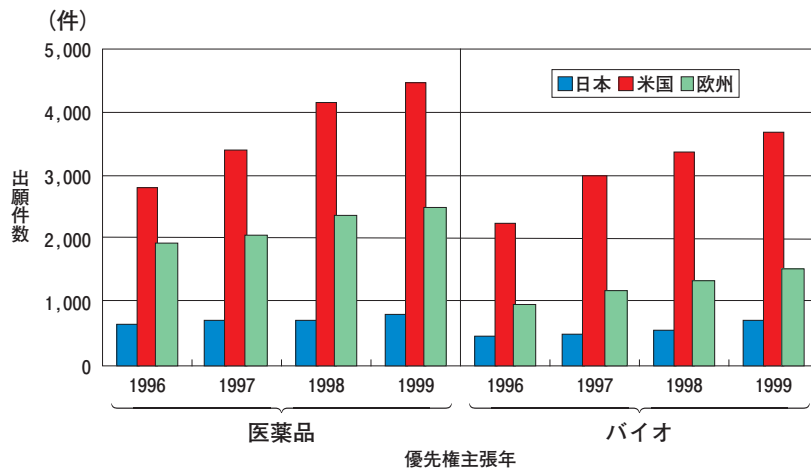
日本国籍の三極コア出願件数の多い「電子部品、半導体」の分野では、欧米に比べて日本の出願件数の増加数が大きく、欧米に対する出願件数の差が広がっている。また、「表示、音響」の分野においては、日本が欧米に比して三極コア出願件数が多いことに加え、日本の出願件数の増加数が欧米の出願件数の増加数を上回っており、欧米に対する出願件数の差が広がっている。

【電子部品・半導体、表示・音響の三極コア出願件数推移】



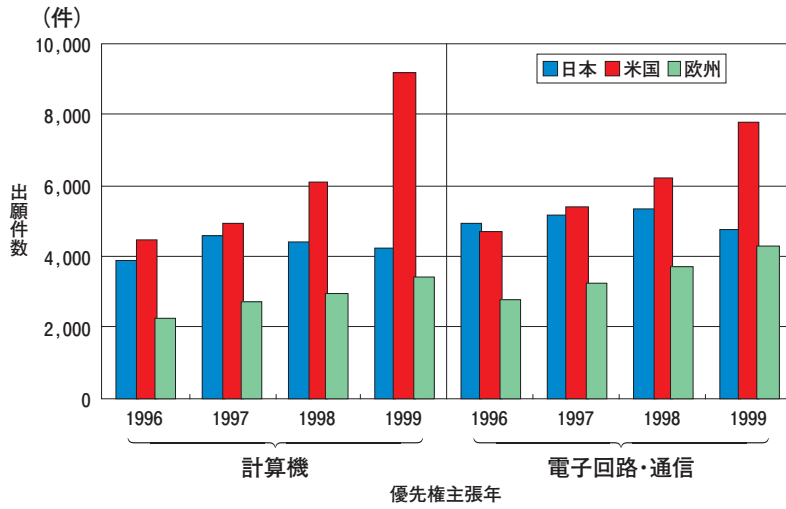
また、欧米の三極コア出願件数が多いライフサイエンス関連分野の「医薬品」、「バイオ」については、日本の出願件数の伸びより、欧米の出願件数が伸びており、欧米と日本の出願件数の差が拡大している。

【医薬品、バイオの三極コア出願件数推移】



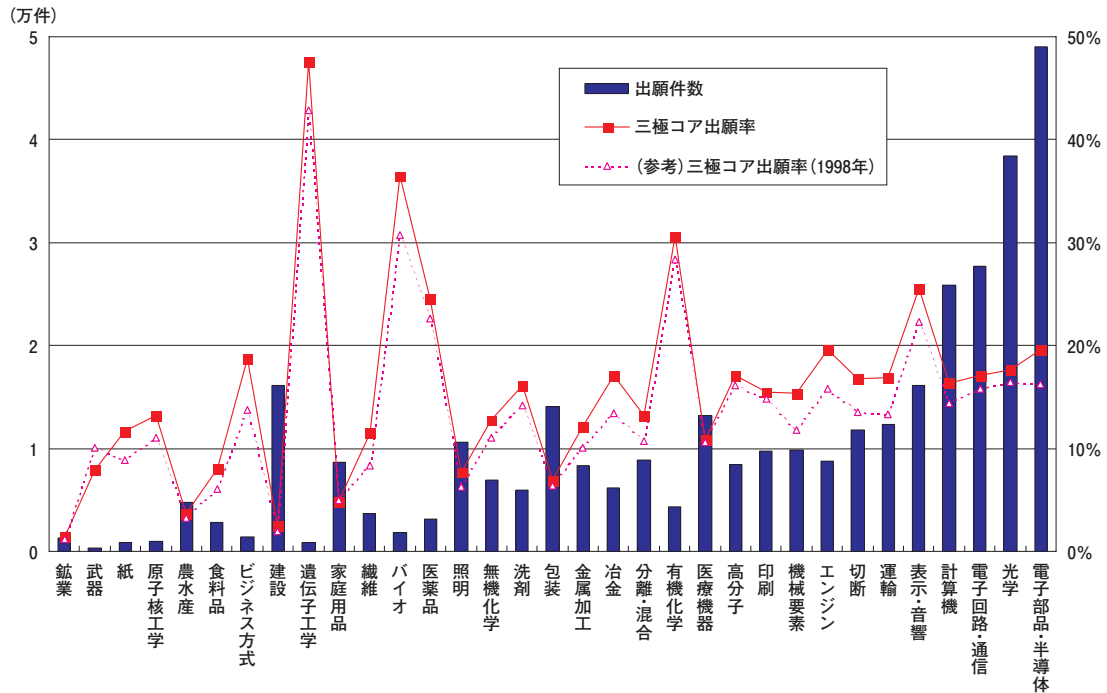
一方、「計算機」、「電子回路、通信」の分野について注目してみると、近年、米国籍の三極コア出願の増加が著しく、日米格差が一層拡大している。

【計算機、電子回路・通信分野の三極コア出願件数推移】



優先権主張年が1999年の日本国籍の出願について技術分野別に三極コア出願率をみると、優先権主張年が1998年のもの¹と比較して、ほとんどの技術分野において三極コア出願率が増加する傾向が伺える。日本の三極コア出願件数が多い分野である「電子部品、半導体」、「光学」分野においては、三極コア出願率は20%弱であるのに対して、「遺伝子工学」、「バイオ」及び「有機化学」分野では30%以上と高く、これらの分野ではグローバルな出願が行われているものと考えられる。他の技術分野においても、今後も引き続きグローバルな権利取得へ向けた一層の取組が期待される。

【日本の技術分野別三極コア出願率（1999年）】



¹ 特許行政年次報告書2003年版に掲載のデータ